

「夏のひと夜のアバンチュール」

作／坂本鈴

原作／ウィリアム・シェイクスピア

(登場人物)

ヘレナ (ディミートリアスの元恋人) 妖精 1
ハーミア (ライサンダーの恋人) 妖精 2
ライサンダー (ハーミアの恋人) 妖精 4、村人 4
ディミートリアス (ヘレナの元恋人) 妖精 3、村人 3
パック (妖精) 村人 1
キャリバン (魔物) 村人 2

【オープニング】

役者たちが口々に、「おはよう」「おはようございます」と、挨拶をしながら舞台上に現われる。役者達は次第に観客に気がつき、観客へ挨拶をする。

役者 1 私たちは、役者です。役者は、影みたいなもので、物語は、夢みたいなものです。所詮は嘘です。全部芝居です。ですが

役者達、森になる。そこにパックがやってくる。

パック ここは、森です。僕は、妖精です。それでは、はじめます。

音楽。急にダンス。森は妖精達になっている。

【妖精の森】

パック お、妖精達。

妖精 1 だれ。

パック おれだよ。パックだよ。

妖精 1 パック

妖精 3 パック？

妖精 1 は、え、おまえ、あの、すばしっこい、いたずら好きのパックかよ。

パック そのとおり。俺こそ夜をさまよう愉快ないたずらもののパックです。ひさしぶり。

妖精 1 その姿、形、間違えたのは俺の目がわるいせい？

パック え。

妖精4 なんかちょっと雰囲気かわった？
パック え、そう？
妖精4 なんか顔色わるくなったっつーかなんつーか
妖精2 やつれてね？
妖精1 ちゃんと食ってる？
パック え、食ってる食ってる。
妖精1 何食ってんの。
パック なにってべつに。ちゃんと。ふつう。感謝とか。祈りとか。
妖精2 でもなんか、おまえ邪悪なかんじがするぞ。
パック え？
妖精4 まじだ。
妖精3 たしかに。
妖精1 おまえ、
パック （話をそらして）あれえ！！おまえ見ない顔じゃん。新入り？
妖精3 あ、はい。そおっす。お噂はかねがね。
妖精4 コラあ！！
パック はい。
妖精4 おまえさあ、もしかして、とはおもうけど、人間の恨み言でも食ってたんじ
 ゃねえだろうな。
パック たべてない。たべてないよ。
妖精4 ほんとだな。
パック ほんとにほんとに。
妖精2 あんなの食ったら、おまえ、あれだぞ。キャリバンとおなじになるからな。
パック わかってるよ。
妖精3 え、キャリバン？
妖精4 旨え旨えっていいながら、恨み言を食い続けた妖精な。
妖精3 それから魔物になったってやつっすか。
妖精4 知ってんじゃん。
妖精3 あれ、都市伝説とかじゃねえんすか？？？
妖精2 ちげえよ。いたの。ほんとにいたの。
妖精3 まじっすか。
パック あいつ、結構いいやつだったのに。
妖精1 おまえ、仲良かったもんな
パック よくねえよ！べつによくねえけどさ。
妖精3 でもそんなにうめーんすか。
妖精達 え。
妖精3 恨み言。
妖精4 んなわけねーだろ。

妖精3 でも、でも確かにどっかで聞いたことはある気がする。ひとの悪口蜜の味。
妖精1 ちょっとちがくね。
パック いや、でもまじでアレなんだって。感謝とか愛とか祈りとかそういうなんか、俺たち妖精の食べるものとは比べ物にならないっつーかなんっつーか。
妖精4 は??
パック いや、聞いた話だよ。聞いた話なんだけど、こってりと油が乗ってて、舌に乗せたとなん、とろけるとろける。そして、一口かむと、うまみがじゅわー…………
妖精3 ああ、俺も食ってみたいかも。
妖精4 おい。おまえ、やっぱりさあ、
パック いやいやいや、聞いた話。聞いた話です。はい。
妖精1 ほんとだな。
パック ほんとです。でも、だからこそ、ちょっと、誘惑されちゃうときはある。
妖精2 なにに
パック きこえない?
妖精3 なにが。
パック おいしそうなおしゃべりが。
妖精2 どこから。
パック この森のふもとからすこし離れた小さな村から。
妖精1 誰の。
パック 井戸端会議の女達の。
妖精4 どんなおしゃべり。
パック あぶらぎった、とろけそうな悪口のおしゃべり。

【村】

妖精たちは村人に変身する。そこは、ちいさな村。

村人1 きいた?
村人2 きいたわ。あの女。
村人3 あの淫乱女のハーミア。
村人4 あの女また男かえたんでしょう。
村人3 とっかえひっかえよくやるわよね。
村人4 今度は誰。
村人1 ライサンダーくん。
村人達 ライサンダーくん?
村人3 ライサンダーくんで、先月この村にきたあのさすらいボーイ?
村人4 うそ。わたしちょっと狙ってたのに。
村人2 そうなの?わたしも。
村人3 うそうそ。わたしも。

村人1 え、うそ、みんなそうなの。
村人4 え、なに、もしかして、全員そうなの??
村人達 やだ、うそー。
村人4 ねえ、でもあの人ちょっとバカじゃない?
村人1 やだ、そこがいいんじゃない。
村人4 そうだけど。
村人2 そうなのよね。なんかちょっとバカだけど、でもちょっとかっこいいのよ、
村人達 ねー。

ヘレナ登場。

ヘレナ 何話してるの。
村人達 ヘレナちゃん。
村人1 先月この村にきたさすらいボーイのライサンダーくんって、かっこいいけどちょっとバカよね、って話してたのよ。
村人2 ちがうわよ。ちょっとバカだけど、ちょっとかっこいいわよね、って話してたのよ。
村人4 そうよそうよ。
村人1 そうだっけ。
村人4 そうよ。それがあの淫乱女に、
村人1、2、3 しっ。
村人4 は。
ヘレナ え。
村人1 なんでもない。ヘレナちゃんは、最近どうなの。
ヘレナ どうって。
村人1 すきなひととか、きになるひととか。
ヘレナ わたしはべつに。
村人2 そうよね。まだね。
村人3 そうよね。
村人4 うん。
村人1 でも悪いことはいわないわ。ディミートリアスさんのことはもう忘れてたら。
村人2 そうよ。
村人達 ねー。
村人1 ヘレナちゃんならディミートリアスさんなんかより、もっと誠実ないい男がみつかるわよ。
村人2 そうよ。男なんて星の数ほどいるんだから。
ヘレナ うん。ありがとう。でもね、星の数ほどいる男の中で、ただ一人本当に星のように輝いたのは、ディミートリアスさんただ一人だったのよ。
村人達 きゅん。

村人2 わかる。わかるわ。その気持ち。
村人1 それが恋ってやつよねえ。
村人4 今の台詞、ハーミアちゃんにもきかせてやりたい。
村人1ほんとよ。
村人2ほんとね。
村人3ほんとにねー。

ハーミア登場。

ハーミア よんだ？
村人達 ハーミアちゃん。
ハーミア なに。また私のわるぐち。
村人1 別に悪口なんていってないけど。
ハーミア へえ、じゃあ何話してたわけ。
村人2 ヘレナちゃんを捨てて、ハーミアちゃんなんか追いつがるなんて、ディミートリアスさんってばかねってはなし。
ハーミア ああ、そうよね。私もそう思う。私のことはあきらめてヘレナちゃんのところにもどればいいのに。ディミートリアスってほんとばか。
ヘレナ ねえ、ハーミアちゃん、きいていい。
ハーミア なに。
ヘレナ ハーミアちゃんは、ディミートリアスさんをあいしてたんじゃないの。
ハーミア 夜は愛してたんだけど朝になったら違ったってかんじ？
ヘレナ そんなのは本当の愛じゃないんじゃない？
ハーミア 本当の愛じゃなかったって、朝になったら気づいたって感じ？
ヘレナ ハーミアちゃん、そんな軽い恋愛ばかりしてたら、自分の身を滅ぼしちゃうよ。
ハーミア 私の身が滅ぼうと滅ぶまいと、別にヘレナには関係なくない。
村人4 ちょっと、そんな言い方ないんじゃない。ヘレナちゃんはハーミアちゃんを心配して言ってるんじゃない。
村人達 そうよそうよ。
ハーミア いや、別に心配しなくていいし。私あした結婚するし。
ヘレナ え。
村人1 え、なに、だれが。
ハーミア わたしが
村人2 だれと。
ハーミア カレシと。昨日プロポーズされちゃった。
村人3 カレシって。
村人達 ライサンダー君？

村人4、ライサンダーに変身。

ライサンダー ハーミア！
ハーミア ライサンダー！

ハーミアとライサンダー、なんかいちゃいちゃする。

村人1 ライサンダーくん、ハーミアちゃんと結婚するって本当なの。
ライ え、あ、そうそう。いや、もう旅にでなきゃいけねえんだけどさ、こいつが一緒に行くってきかなくてさ。
ハーミア うっそ。ライサンダーが離れたくないっていったんじゃん。
ライ そうだっけ。
ハーミア そうだよ。
ライ まあ俺とおまえはもうふたりでひとつだからな。ひとときだって、はなれてなんていらんないよな。
ハーミア まあね。………てことだから、私もうこの村でるわ。
ヘレナ え、ええ？なに、なにそれ、もうなに、戻ってこないの。
ハーミア うん。今までありがとう。
ライ まじホント世話になったよね。スゲー感謝。ありがとね。
ハーミア てかライサンダー、早く行かないと、森暗くなったらやばくない？
ライ まじだ。日が落ちる前には抜けて一し、そろそろいくか。
ハーミア ライサンダー、つかまえて。
ライ おい。までよ。

ハーミア、ライサンダー、去る。

村人2 なにあれ。これみよがしにみせつけちゃって。
村人3 超やなかんじ。
村人3 男ってなんであんなのにひっかかるのかしら。
村人1 ほんとよ。
村人2 ほんとよ。
村人3 ほんとにねー。

ヘレナ やめて。ハーミアちゃんを悪く言わないで。
村人2 ヘレナちゃん。
村人1 ヘレナちゃんは、ハーミアちゃんに怒ってないの。
ヘレナ うん。だって、ハーミアちゃんは悪くないもの。わたしに魅力が足らなかったのがいけないだけで。

村人1 そんなことないわよ。
ヘレナ ううん。きっとそうなのよ。それにね、わたし、ディミトリアスさんを失って、はじめてあの人をどれだけ愛してるかが分かった気がする。だからこんな気持ちに気づかせてくれて、感謝したいくらいなの。ハーミアちゃん、こんな気持ちに気づかせてくれて、ありがとう。

村人1、2 ヘレナちゃん……………。

村人1 どうして男どもは、ヘレナちゃんの魅力に気がつかないのかしら。

村人3 ライサンダーくんといい、ディミートリアスさんといい、
ヘレナ ディミートリアスさん……………。

村人1 でもよかったじゃない。ヘレナちゃん。
ヘレナ え。

村人1 ビッグなチャンスの到来じゃない。

村人2 そっか。

村人3 そうよね。

ヘレナ え、なにが。

村人達 ディミートリアスさん。

村人2 ハーミアちゃんがいなくなって、傷心のところにつけこめば、ディミートリアスさんだって目が覚めるわよ。

ヘレナ そんな。でも。

村人1 大丈夫。

村人2 がんばって。

村人達 ふぁーいと！
ヘレナ うん。

村人3、ディミートリアスに変身

ディミ みんな！
村人達 ディミートリアスさん。
ディミ ハーミアちゃんが駆け落ちしたってホント。

音楽。突然踊り狂う村人達。

【森】

舞台は森。踊り狂う村人達はいつのまにか妖精になっている。
妖精のダンス。その中に魔物のキャリバンと一緒に混ざっている。
妖精の一人がそれに気がつく。

妖精1 え。

キャリバン おう。
妖精達 うおおおおおおお。
妖精2 キャリバン。
妖精3 キャリバン！！！！？？？
キャリバン 久しぶり。
妖精1 おまえ、魔物の分際で俺たちに何の用だよ。
キャリバン 用っていうか
妖精2 こっちくんなよ。えい。

妖精、石を投げる。

キャリバン いった。なんだよ。
妖精4 くんなつつつてんだろ。。
キャリバン このやろー。
妖精達 わあああ。

妖精達、にげだす。

キャリバン あ、おい。

そこにパック登場。

キャリバン あ。
パック え。
キャリバン パック、え、おまえ、あのパック？
パック え、
キャリバン 俺だよ、おれおれ。キャリバン。
パック キャリバン？ああ、キャリバ…キャリバン！！！！？？
キャリバン 久しぶり。
パック な、おまえ、ま、魔物になったんじゃ。
キャリバン なったけど。
パック なったんだよな。あのときこう、食べ過ぎて。
キャリバン そうそう。つい食べすぎちゃってなあ。いやあ、あのときはびっくりしたよ。
パック 俺もあのときはびっくりしたよ。
キャリバン でも、お前はならなかったんだよな。あのとき一緒に食べたのになあ。
パック 俺はまあ、食べ過ぎなかったから。
キャリバン そっか。
パック うん。

キャリバン で、お前はいつ魔物になるの。
パック は？え？俺？？ならないならない。
キャリバン え、ならないの。
パック ならないよ。え、なに、なんなのその流れ？？
キャリバン いやあ、最近おまえが魔物っぽくなってきたってきいてさあ。
パック え。
キャリバン だって、あれだろ。結局あの味がわすれられなくて、ちょこちょこたべたりしてんだろ。
パック ううん。ううん。たべてない、たべてない。
キャリバン うそつけ。だって、おまえ、おれ達と同じ匂いがするぜ。
パック たべてないって。
キャリバン いやいや、これは、昨日たべたな。魔物までカウントダウンとこだよなあ。
パック え、つまりあれ？もしかして、お前、俺を「おむかえにきた」てきなかんじ？？
キャリバン やだなあ、そんな、まるで死神みたいに。
パック 死神と魔物なんて、親戚みたいなもんだらう。
キャリバン 妖精と魔物だって、兄弟みたいなもんだらう。
パック いやいや、ちげえし。一緒にすんなよ。
キャリバン あれ？あれあれ？つめたくね。俺たち仲良しだったじゃん。
パック やめてくんね。そういうの。いっとくけど、俺は魔物になんてなんねえからな。
キャリバン またまた、昨日たべたくせして。すきなんだろ。うらみごと。
パック たしかに、たしかに、昨日はちょっと、ほんのほんのちょこっと、たべちゃったかもしれないけど、でも、これでもおれは普段は健康志向なんだから。
キャリバン あ、そうなんだ。へえ。普段何食べてんの。
パック お祈り。感謝。喜び。希望。
キャリバン それ、うまい？
パック うまいよ。最高だよ。やっぱりいいよね。固めで薄味でかめばかむほど味がでて。健康になる感じがするもんね。
キャリバン まあ、健康は大事だからな
パック そうそう。なんつうの、こう、体が喜ぶかんじ？
キャリバン そうだよな。でも、もうすこし味が濃いということないんだけどなあ。
パック まあなあ。たしかに、もうちょっと濃くてもいいよなあ。
キャリバン そう。たまーにあのガツンと濃い味が恋しくなるときがあるよなあ。
パック たまーになあ。
キャリバン あのしびれるように濃い味でととろけるような舌触り。
パック ああ、そうそう、それでいて、ひとくち噛むとなあ
キャリバン ねっとりとしたふかーいうまみが、
パック 口の中で、じゅわっつとひろがって
キャリバン・パック やっぱり恨み言は最高だよなあ。
パック わあああああ、やめろお。

キャリバン ほら。むりしちやっつて。うまいぞ。食べたいんだろ。恨み言。
パック 食べたくない。食べたくないことにしてるんだ。
キャリバン なんでだよ。
パック 決心したんだ。もう二度と、恨み言は食べまいと。
キャリバン 決心したはずなのに、また繰り返してしまうのはこれいかに。
パック たしかに、いままでの俺はそうだった。でも今日からの俺は違う俺。
キャリバン といいながら、ダイエットに失敗する女を何千人みてきたことか。
パック そんな奴らと一緒にするな。俺は、やるときはやる男だぜ。
キャリバン といいながら、タバコをやめられなかったおじさんを何万人みてきたことか。
パック なにをー！
キャリバン なんだよ。
パック・キャリバン あ、
パック ……だれかきた？
キャリバン みたいだな。
パック 男と、
キャリバン 女。
パック 感謝の言葉が食えるかな。
キャリバン 恨み言ならご馳走するぜ。
パック 結構です。

パック退場。

キャリバン 遠慮すんなよ。

キャリバン、パックを追う。